

市之川公民館だより 令和8年2月号 (No.626号)

〒793-0037 西条市市之川6678-1 市之川地区人口「12月末現在」

Tel・Fax (0897) 56-3300 人口 7人(男3人・女4人)

eメール ichinokawa-k@saijo-city.jp 世帯数 5世帯

※ 西条市市之川公民館だよりで検索するとカラー版がご覧になれます。

2月 如月 (きさらぎ)

立春とはいえ、寒い日が続きます。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

公民館では3月末の閉館に向けての片付け作業が本格的に始まりました。まずは、「カラオケ設備」です。飯岡公民館からの要望もあり、社会福祉協議会と協議した結果、飯岡公民館へ移転することになりました。

また、2月末日を完了目標に随時片付けをしております。来館の際は、ご迷惑をおかけすることも多々あると思います。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

公民館の花：水仙
1月8日撮影



《2月の行事予定》

日	曜	行事・時刻・場所
11	水	祝 建国記念日
23	月	祝 天皇誕生日

民生児童委員は令和7年12月1日に一斉改選しました。

大町地区（担当区域：市之川地区）民生児童委員は、下記のとおりです。民生児童委員は、守秘義務があるので相談内容や個人情報が漏れることがありますので、安心してご相談ください。詳しい内容は、2月市広報誌及び市ホームページをご覧ください。

氏名：矢野洋子 担当区域：市之川・丸野・保野□

【問い合わせ先】
生活福祉課 総務福祉係 TEL0897-52-1288

※ 大町公民館文化祭にて【12月7日（日）】

大町公民館の文化祭に「西条高校商業科輝安KOU房」の生徒が参加しました。ここではワークショップや物品販売を行いました。生徒の皆さんとても手際がよく、ただただ、感服するばかりです。また、この日は東京都に本社のある「西遊旅行の職員」から閉館前にと市之川公民館へあいさつに来られました。折角の機会です。次年度以降の旅行ツアーの可能性について相談させて頂きました。西遊会社の旅行ツアー『日本列島の起源を探る地質紀行』はこれまでに4回実施されており、市之川はとても人気の場所となっているそうです。担当の渡辺先生とも協議し、開催に向け検討することとなりました。どのようなツアーになるか、来年度が楽しみです。



商品の説明を受ける西遊旅行の藤本さん



陳列された商品

ワークショップ
「輝安鋳入りボールペンづくり」



西条農業高校 直売コーナー



※ 大町公民館ロビーに展示【令和8年2月末日まで】

展示の様子



市之川地区の神社



令和7年度西条高校文化祭における「造岩鉱物講習会」の資料として作成したものです。
講師（資料作成指導）：佐々木 望氏
資料作成者：西条高校・市之川公民館



※ 兵庫県【多田銀銅山悠久の館】訪問

1月17日（土）～19日（月）にかけ兵庫県猪名川町・京都市に行ってきました。主たる目的は、京都市の益富地学会館主催の「石を楽しむ新春交流会」です。今月号では17日に訪問した、兵庫県猪名川町が多田銀銅山について紹介します。多田銀銅山は1660年に本格的な鉱山経営が開始。1973年（昭和48年）に閉山した鉱山です。2015年（平成27年）に多田銀銅山遺跡が国史跡に指定されています。

多田銀銅山は742年に奈良東大寺の大仏鑄造に銅を献上、970年には銀を源満仲に献上したと伝承されていますが、歴史的な裏付けは取れていないそうです。一方、「続日本書紀」では698年に伊予の国から白め、すずかねを朝廷に献上したことが記されています。伊予の国とは市之川鉱山ではなかろうかと想像されています。愛媛県を始め、全国から献上された鉱物で東大寺の大仏が鑄造されたと思うとロマンを感じます。



多田銀銅山悠久（ゆうきゅう）の館



展示室の入口



館内の様子



文化財担当の職員に公民館だよりへの掲載許可を頂いております（口頭）

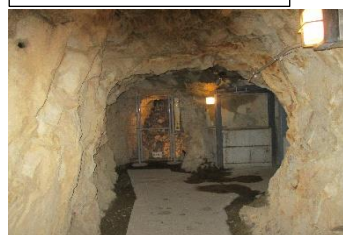
案内板



見学坑道 青木間歩



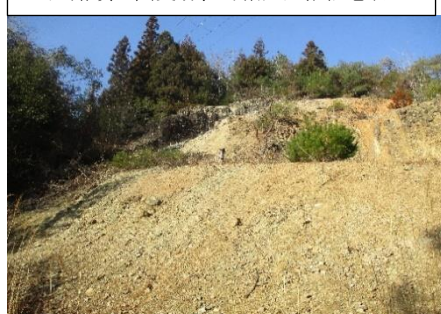
見学坑道内



露頭堀の跡



大露頭 国史跡、町指定天然記念物



ジャリ池。ズリ山が大雨で崩れ、川がせき止められてできたそうです。



2026年1月10日

～毎月10日は人権を考える日～

出典：「令和6年度 人権意識を高めるための作品集」からの人権作文
（西条市・西条市教育委員会 西条市人権教育協議会）

愛のある言葉で

西条市立西条南中学校 2年 杉原 朋
（杉原 朋さんが1年時に書いた人権作文）

今年の夏、四年に一度世界中が盛り上がるオリンピック・パラリンピックがパリで開催されました。しかし、多くのアスリートが華々しく活躍する裏で、悲しい出来事がニュースになりました。それは、SNSを使って選手や審判に対して誹謗中傷の言葉が投げつけられていたことです。一人や二人の話ではなく、多くのアスリートや運営に携わっている方々が、その言葉により傷付けられました。このニュースを聞いて、私はどうしてそんなに簡単に酷い言葉を全世界に発信することができるのだろうと不思議に思いました。

私が一番多く見かけたコメントは、男子バレーボール選手に対しての誹謗中傷でした。私自身が、バレーボール部に所属していることもあり、どの試合も応援していました。だからこそ、納得のいかないコメントがたくさんありました。オリンピックが始まる前から、注目を浴びている選手が多かったこともあり、勝利まであと一点という場面で、ミスをした選手に対し、「大事なところで失敗したらだめでしょ。」というコメントがたくさんありました。でも、「攻めにいった結果だ。」という人もいます。両方の意見を見ていて、世の中にはバレーボールを経験したことがない人は山のようにいるということに気が付きました。人はそれぞれ、経験値も違えば考え方も違います。だからと言って、一生懸命頑張っている人に対して酷い言葉をかけていいという訳ではありません。他のスポーツや出来事でも同じです。その競技のことやその選手たちがどれだけ頑張ってきたかを知らないのに、簡単に人をけなしたり傷付けたりすることは間違っています。オリンピック選手も人間です。そして、オリンピックに出場している選手は誰よりも努力してきた人たちです。そして、誰にでも失敗はあります。昔からアスリートに対して酷い言葉を投げつけるようなことがなかったわけではありません。現在、それがSNSで可視化され、ずっと残ってしまい本人に届いてしまうようになりました。有名人や著名人になら、誰が言ったかもしぐにはばれないし、酷い言葉をぶつけても大丈夫という誤った考えを持つ人も少なくありません。そういう考えをなくしていかなければ誹謗中傷による事件はなくならないと思います。

他にも、女子ボクシングでは性別を巡る問題により攻撃の対象になってしまう選手がいました。私もその話を聞いて、戸籍上は女性でも体格が男性のままなので戦う相手が怖いと思うのは仕方がないことなのではと思いました。実際に、怖くなり棄権した選手もいたそうです。攻撃の対象となった選手は、インタビューで「私は誰に何と言われようと女よ。」と宣言していました。その選手もこれまでずっと誹謗中傷されながら必死に女性として戦ってきたんだと知りました。女子ボクシングの性別問題は、オリンピック前から議論があり、勝手に性別について公表されるなどプライバシーの侵害でも問題視されています。女性であることを否定するような考えがSNSで流れることで女性差別につながり、また、トランスジェンダーの方に対する差別にもつながっています。その選手が、ボクシングをしながら、辛い思いをして頑張ってきたことを知ると、私はいろいろなことが難しく感じて周りの私たちがしっかりと考えなければならぬと感じました。

誰にでも文句を言ったり、意見を言ったりする権利はあります。でも、不特定多数の人に見られるSNSに書き込んで人を傷付けて何になるのか、私は疑問に感じます。この言葉を発したら、相手や周りの人がどう感じるのかを考えて言葉を選ぶ必要があると思います。ただ、客観的に見れば中傷になる言葉も、立場が違えば、正当な考えだと思う人もいます。そんなことを考えると、より言葉を選ぶ必要があると感じました。言葉は便利なものですが、時に刃となります。自分の口から出ている刃物を相手に向けたときに、どれくらい相手にダメージを与えるのか。それを考えて言葉を選ぶべきです。有名人でも誰でも、同じ人間だから、酷いことを言われたら傷付きます。これからは、それを意識して言葉を使ったら嫌な気持ちになる人はいないかなど、言葉を見直して発信することが大切だと思いました。パリオリンピック・パラリンピックで誹謗中傷の対象になった選手には、これからも負けずに堂々と戦ってほしいと思いました。日本バレーボール協会の方が、「選手たちを愛のある言葉で応援してください。」と訴えかけていました。世界中から誹謗中傷の被害で苦しむ人がいなくなることを、SNSや世界中の人たちが発信する言葉が愛のある言葉であふれることを願っています。

西条市人権教育協議会 西条市人権擁護課